

a keyboard anthology

First Series Book II

Grades 3 & 4

AIBRISM
PUBLISHING

a keyboard



anthology

キーボード・アンソロジー 1シリーズ
Book 2 (グレード3&4)

with pieces by

J. S. Bach, Beethoven, Franck, Frescobaldi,
Galuppi, Glière, Grieg, Handel, Haydn, Heller, Hook,
Mozart, Peerson, Rameau, Rathgeber,
Scarlatti, Schumann, Tchaikovsky

edited by Howard Ferguson

The Associated Board of the Royal Schools of Music

1. 落ち葉

マーティン・ピアソン

p. 2

「Fitzwilliam Virginal Book」よりの抜粋。この鍵盤音楽のための膨大な曲集はフランシス・トレギアンが英国への反抗の咎でフリート監獄に入獄していた間にまとめられたものである。24の装飾記号は省いてある。すべてのフレージング、強弱記号は、校訂者の手による。

2. クラント イ短調

ジローラモ・フレスコバルディ

p. 4

出典：フレスコバルディの「Tocccata d'intavoltura di cimbalo et organo」(1637) すべてのフレージング、強弱記号は、校訂者の手による。

3. ヴィヴァーチェ イ長調

ヴァレンティン・ラートゲーバー

p. 6

出典：「Musikalischer Zeit-Vertreib auf dem Klavier」(1743)
すべてのフレージング、強弱記号は、校訂者の手による。

4. 無関心

ジャン・フィリップ・ラモー

p. 7

出典：「Nouvelles Suites de Pièces de clavecin」(1728)
オリジナル譜に24あった装飾記号は省かれ、ラモーによって使われていた新しい記号に書き換えられている。(脚注を参照)。
すべてのフレージングは、校訂者の手による。

また、18世紀のフランスのnotes inégales(イネガル奏法)という伝統ののっとり演奏すると、つまり、8分音符を2つペアにし、わずかながら第1音を長めに第2音を短めに——非常に大まかな表現ではあるが、♪のように——弾く事により、リズムに軽快さを与えることが出来る。

5. ソナチネ 変口長調 B.60/27

ゲオルグ・フリードリッヒ・ヘンデル

p. 9

この単独楽章は、「Suites de Pièces pour le Clavecin」(G.F.Witvogel, Amsterdam 1733)の第3巻より引用。オリジナル譜には、フレージングも、強弱記号も書かれていない。

6. プレリユード ハ短調 BWV999

ヨハン・セバスチャン・バッハ

p.10

本来はリュートのために書かれたこの単独のプレリユードは、バッハの若き崇拜者であったヨハン・ペーター・ケルナー所蔵の自筆譜からのものである。オリジナル譜には、フレージングも、強弱記号も書かれていない。

しかし、リュートでもクラヴィコードでも、演奏者は自分自身で強弱をつけることを許されていたであろうと思われる。それは、ちょうど現在の校訂で示されているように旋律の上がり降りや和声の緊張緩和をより響かせるためであったろう。

7. ソナタ ト長調 K.391 L.79

ドメニコ・スカルラッティ

p.12

出典は、現在はパルマにあるパラティーナ図書館所蔵の鍵盤曲集15巻の原譜からの一曲。1、2、5、6小節目と41-3小節にある2つの音をつなぐスラーは、オリジナルのもの。あとのフレージング、強弱記号はすべて、校訂者の手による。

8. ソナタ イ長調 第3楽章
バルダッサレ・ガルツピ p.14

出典は、プレーシャのヴェンテューリ・イスティテュートにある原譜より。
すべてのフレージング、強弱記号は、校訂者の手による。

9. ソナタ 変イ長調 Hob.XVI/43 第2楽章
フランツ・ヨーゼフ・ハイドン p.16

この楽譜は、1783年にロンドンでBeardmore&Birchallによって出版された初版に基づいている。そこには、
フレージング、強弱記号は殆ど書かれていなかった。

10. アンダンティーノ 変ホ長調 K.236
ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト p.17

この単独の「Andantino」の由来ははっきりしない。しかしおそらく1790年にJ.B.クラマーの自筆アルバム
(現存していない)の為に書かれたものであらうと思われる。1852年の初版では、今の楽譜の形にはなってい
たが、強弱記号はついていなかった。

11. パストラル Op.25
ジェームズ・フック p.18

出典は、「A third set of twelve Divertimentos for the harpsichord or piano-forte, Op.25」(T. Skillern,
London 1782)のディヴェルティメント第8番より。
テンポの指示、すべてのフレージング、強弱記号は、オリジナル譜には全くなく校訂者の手によるもの。

12. ソナチネの2つの楽章 WoO 50
ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン p.20

この2つの楽章は、18歳のベートーヴェンがボンで友人フランツ・ゲルハルト・ヴェーゲラーのために書いた
もの。
すべてのフレージング、強弱記号は、校訂者の手による。

13. 初めての悲しみ Op.68 No.16
ロベルト・シューマン p.23

出典は、1848年に書かれた「Album für die Jugend」のシューマン本人の自筆譜より。かぎカッコ内の記号は、
校訂者の手によるもの。

14. 洞窟の歌
セザール・フランク p.25

出典：「L'Organiste: 44 Petites Pièces」(Enoch, Paris)

15. 練習曲 変イ長調 Op.47 No.23
ステファン・ヘラー p.26

出典：「Studies, Op.47, Book 3」

16. 夜警の歌 Op.12 No.3
エドヴァルド・グリーグ

p.28

出典：「Lyrische Stükchen, Book I, Op.12」(Peters, Leipzig)

17. ロシアの歌 Op.34 No.15
ラインホルト・モリツォヴィチ・グリエール

p.30

出典：「24 Pièces caractéristiques pour la Jeunesse, Op.34」(P.Jurgenson, Leipzig & Moscow 1908)

18. 朝の祈り Op.39 No.1
ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー

p.32

出典：「Jugend Album, Op.39」(Jurgenson, Moscow 1893)